



三島村・鬼界カルデララジオパーク 2025 鹿児島県三島村カレンダー



硫黄島

大阪のメンドン

大阪の万博公園内にある「国立民族学博物館(みんぱく)」は、2024年に創設50周年を迎え、記念事業として特別展「日本の仮面・芸能と祭の世界」を開催した。総計700点をこえる仮面が展示され、日本における仮面の歴史とそのあり方を紹介した。展覧会では、硫黄島のメンドンも紹介された。

会場は4つに区切られ、第1章「仮面の歴史」、第2章「祭りや芸能の中の仮面」、第3章「仮面の諸相」、第4章「仮面のヒーロー」と、4つの視点で仮面が紹介された。メンドンは、第2章の会場では「祭りの面」として、第3章の会場では「季節の訪れ者または地域の心霊」として、九州の面とともに紹介された。

この展覧会では日本の仮面を、時代、地域、役割、などさまざまな角度で紹介して、日本の仮面とは何かを探ろうとしている。第4章「仮面のヒーロー」の部屋では、現代の仮面としてテレビヒーローや、プロレスマスク、子供用の面などを取り上げ、現代の仮面を、超人的な力を得る装置、または人々の望みを写す鏡のような存在として紹介している。

展覧会挨拶に「世界の仮面には、地域や民族、時代、場所の違いを越えて、よく似た点があることから、その探究には、人間のなかの根源的なものの探究につながる可能性をもっている」とある。たしかにメンドンの超常的な厄払いの能力や、集落の人間関係から自由な立ち振る舞いなど、その特徴には、どこか現代の仮面につながる点があるかもしれない。

博物館では、2024年5月3日に硫黄島で撮影されたドキュメンタリー映画『島と人とメンドン』が上映され、藤岡幹嗣監督や博物館関係者と三島村の関係者が座談会をした。登壇した博物館の人々は、古くから硫黄島と縁が深い。そのためか大阪のメンドンの扱いは、特別な招待客のようなおもむきがあった。

出典 順不同 敬称略

表紙『大阪のメンドン』
【取材協力】 国立民族学博物館

1月『俊寛の見た風景 (平安京)』
【取材協力】 京都市歴史資料館、京都市平安京創生館、京都アスニー (京都市生涯学習総合センター)・荒木真歩
【参考文献】 高橋康夫 (2010) 都のそびえる法勝寺八角九重の塔『創造する市民 第95号』. 12-21./ 富島義幸 (2016) 百鳥巡りの京の景観を読む『創造する市民 第107号』. 33-40.

2月『失われた信仰』
【取材協力】 川野静・山口正人・日高寛
【参考文献】 三島村誌編集委員会(1990)『三島村誌』. 三島村./ 宮本常一、宮田登(編) 早川孝太郎(著) (1975)『早川孝太郎全集 第九巻 島の民俗』. 未来社./ 柳田国男(1936)『山の神とラコゼ』. 掌書堂./ 堀田吉雄(1966)『山の神信仰の研究』. 伊勢民俗学会./ 小菅貞男(1994)『ポケット図鑑 日本の具』. 成美堂出版.

3月『俊寛の見た風景 (日宋貿易)』
【取材協力】 福岡市経済観光文化局 文化財活用部 埋蔵文化財課 大庭泰時
【写真提供】 福岡市・三島村
【参考文献】 古川日出男 (訳) (2016) 『平家物語』/ 福岡市教育委員

会 (2021) 『中世博多の港』. 福岡市教育委員会./ 福岡市教育委員会 (2023) 『福岡市埋蔵文化財調査報告書 1468: 博多津』. 福岡市.

4月『竹島の学校』
【取材協力】 日高忠・山崎晋作
【写真提供】 三島村
【参考文献】 三島村誌編集委員会 (1990) 『三島村誌』. 三島村.

5月『片泊のジジミチョウと植物』
【取材協力】 中村京平
【写真提供】 中村京平・写真 AC. 更新日付不明.
<https://www.photo-ac.com/main/detail/29826864/> (参照 2024-10-24) . photolibrary 写真素材 - フォトライブラリー . 更新日付不明.
https://www.photolibrary.jp/img/890/405490_6970617.html (参照 2024-10-26)
【参考文献】 福田晴夫、廣森敬昭 (2002) 鹿児島県三島村黒島 2001年6月の昆虫類 『鹿児島県立博物館研究報告 (第21号)』. 27-46./ 中澤浩司、江平憲治、今村久雄 (2007) 鹿児島県三島村黒島における2006年7月の昆虫類 『鹿児島県立博物館研究報告 (第26号)』. 89-101./ 金井賢一、守山泰司、中澤浩司 (2012) 2010年10月黒島における昆虫記録 『鹿児島県立博物館研究報告 (第31号)』. 73~78./ 金井賢一 (2015) 三島のチョウの分布に関する一考察 『鹿児島県立博物館研究報告 第34号』. 87-94./ 金井賢一 (2015) 2014年硫黄島・黒島(口之三島)のチョウ記録と、それを用いた教育実践 『鹿児島県立博物館研究報告 第34号』. 79-86.

6月『島の猫いまむかし』
【取材協力】 山崎晋作
【写真提供】 山崎晋作・三島村
【参考文献】 公益財団法人どうぶつ基金. 更新日付不明. <https://www.doubutukin.or.jp/>. (参照 2024-11-02) .

7月『白化したサンゴ』
【取材協力】 いおワールドかごしま水族館・中村真人・山崎晋作
【写真提供】 いおワールドかごしま水族館・山崎晋作・長濱義人
【参考文献】 小西健二 (1980) 隆起サンゴ礁からみた最終間氷期以降のアジア・フィリピン海プレート境界付近の地史 『第四紀研究 (The Quaternary Research) 18(4)』. 241-250. / 大久保 奈弥 (2021) 『サンゴは語る (岩波ジュニアスタートブックス)』. 岩波書店./ 市立しものせき水族館海響館. 更新日付不明.
https://www.kaikyokan.com/cms/cp_sealife/natunisasare_nukurage/#:~:text=Oどうやって刺すの? (参照 2024-11-04) .

8月『九月祭・神との食事』
【取材協力】 大里地区・日高寛
【参考文献】 三島村誌編集委員会 (編) (1990) 『三島村誌』. 三島村./ 原田信男 (1997) 古代・中世における共食と身分 『国立歴史民俗博物館研究報告 第71集』. 498-515.

9月『大里の運動会 (再掲)』
【取材協力】 三島村大里学園・大里地区・日高寛・宮田登
【写真提供】 日高政行
【参考文献】 有吉佐和子 (1960) 『私は忘れない』. 新潮社.

10月『大里の十五夜』
【取材協力】 三島村大里学園・日高寛・日高学
【写真提供】 三島村大里学園
【参考文献】 日高重行 (2004) 『島の歳月 - 鹿児島県三島村黒島』. 南方新社.

11月『木工品が語る片泊の昔話』
【取材協力】 上園料ススキ
【写真提供】 三島村
【参考文献】 宮本常一、宮田登(編) 早川孝太郎(著) (1975) 『早川孝太郎全集 第九巻 島の民俗』. 未来社./ 南竹力 (2021) 『近海漁に使われた串木野の小型和船 (改訂版)』. 南竹力./ 鹿児島県 (1887) 『島嶼見聞録』. 鹿児島県./ 熊本県文化企画課松橋収蔵庫 (2010) 『ちょっと昔の暮らし探検3』. 熊本県.

12月『長濱吉延の見た風景 (朝鮮出兵)』
【取材協力】 佐賀県立名護屋城博物館・折田恵美子
【写真提供】 三島村
【参考文献】 三島村誌編集委員会 (編) (1990) 『三島村誌』. 三島村./ 佐賀県立名護屋城博物館 (編) (2024) 『なごやめぐり』. 佐賀県.